

第 1 号報告 : 2022 年度 活動報告

2022 年度 (2022 年 4 月 1 日 - 2023 年 3 月 31 日)

始めに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する規制が緩和されたことで、2022年度はシンガポールでの理事会や IPA 創立 15 周年記念セミナー、千葉県での第 13 回圧入工学セミナーなど、徐々に対面形式での活動を再開することができた。

本報告書は、「2022 年度 活動計画」と同じ形式で、大きく 5 つの常設委員会に大別して作成している。この形式により、IPA 会員の皆様が本報告書と活動計画を比較し、理解しやすくなることを期待している。

1. 研究委員会

2022 年 11 月にシンガポールで行った理事会の際に研究委員会を開催し、今後のセミナー開催やケースヒストリー発行の予定、技術委員会の活動をさらに促進させるための準備委員会およびフォローアップ委員会の設置の必要性などについて議論を行った。

A) 技術委員会

a. 技術委員会 TC-4

テーマ: 圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法に関する技術委員会

活動内容:

TC-4 は 2019 年から 3 年間の研究活動が計画され、2022 年度中に最終報告書を完成させ研究委員会に提出する予定であったが、活動に遅れが生じ報告書の完成に至っていない。TC-4 の運営・活動計画を再考し、スケジュールの再調整を行う。

b. 技術委員会 TC-5

テーマ: オペレーターの技量と経験が圧入工法の施工性に及ぼす影響に関する技術委員会

活動内容:

TC-5 は 2020 年から 3 年間の研究活動であり、2022 年度は最終報告書を提出する 3 年目の活動だが遅れが生じている。2022 年度は会議を 2 回、全国圧入協会(JPA)の技術委員会との合同会議を複数回開催し、これまでに圧入管理システムのデータを 3 件収集。さらなるデータ収集のためには 1 年間の期限延長が必要である。

c. 技術委員会 TC-6 ※中国

テーマ：中国における圧入技術の実態調査と課題の抽出に関する技術委員会

活動内容：

2021年から3年間の研究活動を開始、2022年度は2年目の活動であった。TC-6ではアンケート調査を行い、これまでにオペレーターから3件の回答を得るとともに2003年から2022年に行われた91件の施工事例を収集。また、中国語版のPress-in Handbook (圧入ハンドブック) 改訂に向けた会議を開き、改訂のためのアンケート調査票を作成。

B) ケースヒストリー

a. ケースヒストリーVol. 2 (圧入工法適用事例集)

研究委員会で記事の編集を行い、2023年度第一四半期に発行する予定。

b. 圧入工法に関するケースヒストリーの募集 (テーマ特定型)

来年度以降も継続。

[IPA ウェブサイト「圧入工法に関するケースヒストリーの募集」参照](#)

C) 図書館機能 (蔵書)

様々な分野の書籍を収集。 [IPA ウェブページ参照](#)

154冊 (和書113冊、海外書籍41冊) を新たに配架し、計953冊となった。

D) 圧入工学セミナー

2023年2月13日に千葉県で第13回圧入工学セミナーを対面・オンラインのハイブリッド方式で開催し計92名が参加。セミナー主題は当初計画どおり豪雨災害防止に関する流域治水・管理についてであった。 ([IPA Newsletter 2023 Issue 1にて報告](#))

2. 事業委員会

2022年11月にシンガポールで行ったIPA理事会の際に事業委員会を開催し、台湾での海外圧入セミナーや圧入技術に関する用語集の策定について議論を行った。

A) Press-in Handbook (圧入ハンドブック) の多言語化

これまでに、日本語、中国語、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、ドイツ語、ベトナム語、タイ語、ロシア語の10言語で圧入ハンドブックを発行。さらに、事業委員会では2023年度に韓国語版、アラビア語版の圧入ハンドブックの発行を目指して活動を進めるとともに、より多くの国や地域への圧入ハンドブックの普及、圧入技術の促進を図るため、その他の言語についても検討中である。

B) 海外圧入セミナー

a. シンガポール

2022年11月18日に創立15周年を記念して「The Global Best Practices of Press-in Piling Method - 創立15周年記念セミナー in Singapore」を対面形式で開催した。

11 か国からの IPA 理事をはじめ、建設コンサルタント、建設業者、技術者など、計 91 名が参加。シンガポールや東南アジアに関連が深い海岸保全の事例など、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、アフリカでの最新の圧入工法の適用事例のほか、IPA の過去、現在、未来についても紹介された。[\(IPA Newsletter 2022 Issue 4 にて報告\)](#)

b. その他の地域

事業委員会は、圧入ハンドブックの普及を目指し、2023 年 6 月 14 日に台湾での圧入工学セミナーの開催を決定。下記の共催団体から協力をいただき、セミナーの準備を進めている。

- 台湾地盤工学会／Taiwan Geotechnical Society (TGS)
- 臺灣區基礎工程學會／Taiwan Foundation Engineering Institute
- 台北市基礎工程學會／Taipei Foundation Engineering Institute
- 土工技術研究發展基金會／Sino-Geotechnics Research and Development Foundation

C) 圧入工法仕様書

ワーキンググループを設置し、2022 年度の目次の構成を固め、草案作成を開始。全体の 30%が起草された。

D) 圧入技術に関する用語集

圧入ハンドブックの多言語化が進むにつれ、圧入に関する用語の共通化が喫緊の課題となってきたことから、事業委員会で圧入技術に関する用語の編集を行い、IPA 会員および一般に公開するためのプラットフォームを構築する。ワーキンググループは Chun Fai Leung 会長を議長とし、活動期間は 2022 から 2023 年度の 2 年間とした。準備および公開の暫定的なタイムスケジュールは下記のとおり。

ワーキンググループ	タスク	2022年度			2023年度			2024年度		
		←			→			→ 第3回ICPE		
合同グループ (日英)	方針決定	←→			←→					
	用語対応表/DBの作成				←→					
	必要に応じて英→和、和→英翻訳				←→					
	用語対応表/DBのレビュー、修正				←→					
	公開した用語への意見収集、プラットフォームの修正、データの追加・修正ミーティング	x			x	x	x			
	公開★、更新 ☆				★1	★2	★			
グループ 1 (英語)	キーワード*の抽出、優先順位の確認	←→			←→					
	必要に応じて定義の付与、和→英翻訳	←→			←→					
	見直し・修正、要望があれば追加	←→			←→					
グループ 2 (日本語)	キーワードの抽出、優先順位の確認	←→			←→					
	必要に応じて代替案/改名案の検討	←→			←→					
	必要に応じて定義の付与	←→			←→					
グループ 3	定義に必要な図表の準備	←→			←→					
	見直し・修正、要望があれば追加	←→			←→					
事業委員会による維持・更新	英語-他言語の対応表の作成				←→					
								☆	☆	→

- ★1: 日英用語集DBを暫定的にウェブ公開
- ★2: 他言語の用語集を暫定的にウェブ公開
- ★: 用語集を正式にウェブ公開

E) ICPE2024 (第 3 回 圧入工学に関する国際会議 2024)

2024 年 7 月 3～5 日にシンガポールで開催する ICPE2024 にむけ、組織委員会と国際諮問委員会が設立され、会議に向けて準備を開始。ICPE2024 の公式ウェブサイトを開設し、会議概要と論文要旨の募集を記した第 1 報を配信した。

[ICPE2024 公式ウェブサイト参照](#)

3. 広報委員会

広報委員会は計2回の委員会会議を開催し、以下について議論を行った。

A) IPA ニュースレターの定期配信

IPA ニュースレターの3か月ごとの定期配信は、2022年度も下記のとおり継続。

- ・ [Vol.7, Issue 2 2022年6月](#) : 26 ページ
- ・ [Vol.7, Issue 3 2022年9月](#) : 24 ページ
- ・ [Vol.7, Issue 4 2022年12月](#) : 33 ページ
- ・ [Vol.8, Issue 1 2023年3月](#) : 30 ページ

今年度、編集委員会では計4回のミーティングを開催した。

B) IPA ブックレット2 : 杭基礎

下記のとおり、これまでに IPA ニュースレターに掲載された杭基礎に関する特別寄稿を再編集し、2023年3月に小冊子（英文）として発行した。

タイトル	著者
Development of Sheet Pile Foundation	Hidetoshi Nishioka Masayuki Koda
Potential Damage to Steel Pipe Piles During Installation	Mark Randolph
Rapid Load Test of Piles	Tatsunori Matsumoto
Piled Raft Foundation Combined with Deep Mixing Wall Grid	Kiyoshi Yamashita
Long-term response of piled foundations to sustained load	Bengt H. Fellenius
Comments on Analysis of a Static Loading Test	Bengt H. Fellenius

4. 表彰委員会

2022年11月にシンガポールで行った IPA 理事会の際に表彰委員会を開催し、既存の表彰プログラムへの応募促進について議論を行った。また、表彰委員会では2023年中に評価すべき資料の収集に着手した。

A) 各賞の候補者の事前収集

表彰委員会は2020年1月から2022年12月末までの過去3年間分の技術・学術論文のリスト作成を進めた。下記のカテゴリーについて、進行中あるいは完了したプロジェクトの情報や革新的な技術の情報を収集している。

- 1) Outstanding project award (傑出した建設プロジェクトの表彰)
- 2) Innovative technology award (革新的な技術開発に関する表彰)
- 3) Distinguished research award (顕著な研究成果に対する表彰)

B) ICPE2024 における ICPE 優秀論文の表彰の準備

ICPE2024 組織委員会が ICPE 優秀論文の表彰につながる論文の募集を開始した。

5. 総務委員会

2022年11月にシンガポールで行ったIPA理事会の際に総務委員会を開催し、IPAの学会活動を円滑かつ効果的に運営するための課題について議論を行った。

A) IPA活動の活性化に向けた新理事および次世代を担う人材の登用

推薦委員会を補佐し、IPA活動の更なる多様化に向け、地域性を勘案して人選を行った結果、本年度はオーストラリアと日本から新たな理事候補者を選出。また推薦委員会は次世代を担う若手を含む来期（2023～2024年度）の理事監事の候補者名簿を作成し、2023年度の総会において決議するべく準備を進めた。

B) IPAの現地事務局体制確立によるグローバル展開を検討

現地事務局はNewsletterへの記事掲載を通じてIPAの活動に貢献した。

現地事務局の記事は下記リンク先を参照：

[ヨーロッパ（オランダ）](#)、[東南アジア（シンガポール）](#)、[アメリカ（米国）](#)

C) 経済的自立が可能な学会運営の検討

経済的自立による学会運営を継続目標とし、2022年度はIPA創立15周年記念セミナー in Singapore、第13回圧入工学セミナーを独立採算により開催。

D) 圧入工学に関する専門書や論文の編集等への若手研究者および技術者参画の促進

IPA創立15周年記念セミナー in Singapore、第13回圧入工学セミナーを開催し、IPA活動への若手研究者および技術者の参画を促進した。

E) 実装可能技術のための研究活動を全国圧入協会（JPA）との合同で推進

当初の計画通り進行。

6. その他

A) IPA総会

2022年5月16日-27日の12日間の期間で「2022年度IPA通常総会」を開催。2022-2023年度の理事監事の改選、2021年度の活動報告および収支報告、2022年度の活動計画および予算案が承認された。

[\(IPA Newsletter 2022 Issue 2にて報告\)](#)

B) IPA理事会

2022年7月11日に対面・オンラインのハイブリッド方式でIPA理事会を行い、理事23名、監事1名が参加。IPA会長、副会長、専務理事、常設委員会の委員長、副委員長、委員、事務局長の人事案が満場一致で可決された。

[\(IPA Newsletter 2022 Issue 3にて報告\)](#)

COVID-19 に関する規制が緩和されたことで、2022 年 11 月 17 日にシンガポールにて対面形式での IPA 理事会を開催し、理事 20 名（オンサイト 17 名、オンライン 3 名）、監事 1 名（オンサイト）が参加。推薦委員会の設置に関する議案が満場一致で可決されたほか、各委員会活動の進捗報告や ICPE2024 について参加者間で情報共有がなされた。

[\(IPA Newsletter 2022 Issue 4 にて報告\)](#)

2023 年 3 月 20 日-24 日に E メール形式による IPA 理事会を開催し、理事 21 名、監事 2 名が参加。新任理事の選任、来年度の活動計画および予算案が満場一致で可決された。

C) 運営委員会

IPA 会長、各常設委員会の委員長、専務理事および事務局長からなる運営委員会を招集。2023 年 3 月 1 日にオンライン形式で開催し、主に 2022 年度の活動報告、2023 年度の活動計画、および次回の IPA 理事会・総会の議題について協議を行った。

D) 推薦委員会

2022 年 11 月 17 日開催の理事会において推薦委員会が設置された。推薦委員会は 2023~2024 年度の次期理事・監事の候補者名簿案を作成し、2023 年度の総会に上程するべく準備を進めた。

E) 会員数

2023 年 3 月末（2022 年度末）時点での会員数

正会員	713 名	昨年同期	711 名	(+2 名)
学生会員	54 名	昨年同期	76 名	(-22 名)
法人会員	52 社	昨年同期	53 社	(-1 社)

第 2 号報告 : 2022 年度収支計算書

2022年度収支報告書

(2022.4.1-2023.3.31)

(単位: 円)

項 目	2022年度予算	2022年度収支	備 考
事業活動収支			
1 事業活動収入の部			
① 会費収入			
個人正会員年会費	7,150,000	7,130,000	
法人会員年会費	7,100,000	6,796,000	
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
研究受託費	0	0	
書籍販売	5,100,000	2,022,750	
雑収入	200	18,957	
事業活動収入計	35,350,200	31,967,707	
2 事業活動支出の部			
① 会議・セミナー関係			
海外セミナー	500,000	406,334	準備・開催費(台湾)
② 出版関係			
Press-in Handbook	5,000,000	2,213,210	印刷・編集費等
Case History Volume 2	800,000	0	印刷・編集費等
IPA Newsletter	250,000	214,767	編集費等
小冊子シリーズ II. 杭基礎	500,000	267,300	印刷・編集費等
③ 研究関連			
理事会	5,100,000	5,461,603	理事会/運営委員会の開催等
研究委員会(技術委員会)活動費	500,000	500,000	技術委員会TC4, TC5, TC6および新規研究活動
圧入仕様書	500,000	0	編集等活動費
表彰関係	0	0	
図書館機能	1,400,000	1,365,966	書籍購入、図書館システムの保守、動画収集(施工事例)等
その他(調査・他学会参加費)	500,000	487,523	現場取材費、他学会参加費等
④ 管理関連			
15周年記念式典	500,000	820,853	開催費等
情報システム関連費	2,160,000	2,624,316	ウェブサイト・メールサーバー維持管理、論文システム導入費用等
会員管理	20,000	0	
印刷費用(書籍関連除く)	50,000	6,640	学会案内等(書籍関連除く)
郵送費(国内外)	250,000	146,518	
通信費	100,000	95,335	電話代
理事報酬	10,970,000	10,768,445	
賃借料	3,310,000	3,285,946	事務所家賃・複合機の賃借料等
契約外注費	1,650,000	1,641,204	税理士報酬等
支払手数料	300,000	255,407	銀行手数料等
事務用品費	120,000	53,783	
雑費	230,000	376,596	
立替金	0	191,940	台湾セミナー航空券の立替金費
事業活動支出計	34,710,000	31,183,686	
事業活動収支差額	640,200	784,021	
前期繰越収支差額	12,482,816	12,482,816	
当期収支差額	640,200	784,021	
次期繰越収支差額	13,123,016	13,266,837	


In our opinion, the above statement of accounts is presented fairly in all material respects.

監査の結果、重要な点において適正に表示しているものと認める。

Date: 8 May, 2023,

Auditor 

Dr. Goh Teik Lim

Auditor 

Mr. Tsuyoshi Tanouchi